



エコアクション21[®]
認証番号 0012938

環境経営レポート

2023年度

運用期間:【2023年3月～2024年2月】



株式会社グリーンアローズ中部

発行日:2024年10月1日
改定日:2024年12月12日

目次



①環境経営方針	P3
②組織概要	P4
③事業許可の内容	P5,6
④処理工程図	P7,8
⑤所有車両の状況・処理実績	P9
⑥エコアクション21 実施体制	P10
⑦環境経営目標	P11,12
⑧環境経営計画	P13
⑨環境経営目標の実績 環境経営計画の取組結果及び評価と次年度の取組内容	P14,15,16
⑩環境関連法規等の順守状況及び評価結果	P17
⑪代表者による全体評価と見直し・指示	P17

①環境経営方針



基本理念

私たち株式会社グリーンアローズ中部は、石膏ボードを通じて社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み『環境リバリューストラクチャー』創造企業として、様々な環境課題を解決します。

行動指標

- ① 地球温暖化防止に資するため、当社での事業活動で消費するエネルギーで、特に電気及び燃料の使用量削減に努めます。
- ② 産業廃棄物の収集運搬、中間処理の作業を適正かつ安全に行うとともに、無駄を改善して、作業の効率化を図ります。
- ③ 当社で発生する廃棄物の抑制を図ると共に、受け入れた廃棄物のリサイクル率を高めるための処理技術の向上に努めます。
- ④ 産業廃棄物の収集運搬、中間処理の中で、粉塵等の環境負荷の低減及び、環境汚染の予防に努め、これらの継続的改善に努めます。
- ⑤ 環境側面に関する法規制の他、お客様との約束事項、及び当社が定める自主管理基準値を順守します。
- ⑥ 当社及び当社に関連する組織の環境目標を設定し、見直しを行います。

改定日 2024年3月1日
株式会社 グリーンアローズ中部
代表取締役社長 鈴木 章弘

②組織概要



- ・名称及び代表者名
株式会社 グリーンアローズ中部
代表取締役社長 鈴木 章弘
- ・設立
平成20年10月1日
- ・資本金
9,000万円
- ・所在地
【本社工場】愛知県東海市南柴田町木ノ割213番地の7
【名港工場】愛知県名古屋市港区築三町3丁目1番3
- ・環境管理責任者及び担当者並びに連絡先
【本社工場】
環境管理責任者 横道 昌司 TEL 052-689-3501
環境管理担当者 杉山 寛季 TEL 052-689-3501
【名港工場】
環境管理責任者 白井 祐一郎 TEL052-659-2010
環境管理担当者 木村 真毅 TEL052-659-2010
- ・事業内容
産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業（中間処理）、再生資源の製造・販売
- ・事業規模（2023年度）
総売上額 1,703百万円
収集運搬量 7550.11トン
中間処理量 106,649.58トン（本社工場61,445.63トン、名港工場45,203.95トン）
- ・許可内容
産業廃棄物（選別・破碎・圧縮・混練）中間処理、産業廃棄物収集運搬業
- ・事業年度
3月～翌年2月
- ・対象範囲
対象組織：本社工場、名港工場 対象活動：事業内容と同じ
- ・従業員数、延べ床面積

	本社工場	名港工場
従業員数	12人	4人
延べ床面積	17,956.13㎡	11,671.82㎡

③事業許可の内容



産業廃棄物収集運搬の許可範囲

	許可年月日 有効期限年月日	許可番号	許可の種類 (積み替え保管を除く)
愛知県	令和3年12月19日 令和10年12月18日	02300146810	燃え殻、汚泥、廃油、廃アルカリ、廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず(自動車破砕物等を除く)、ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く)、及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、鋳さい、がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く)、ダスト類

産業廃棄物処分業の許可範囲(本社)

許可年月日: 令和3年4月1日 有効年月日: 令和10年3月22日迄		許可番号: 02320146810		
圧縮	紙くず			
選別	廃プラスチック類(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず(自動車等破砕物を除く)、ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新設、改築又は除去に伴って生じたものを除く)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)、がれき類(石綿含有産業廃棄物を除く)			
破砕	ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新設、改築又は除去に伴って生じたものを除く)及び陶磁器くず(自動車等破砕物及び石綿含有産業廃棄物を除く)			
施設区分	取扱品目	設置場所	設置年月日	処理能力
圧縮設備	紙くず	本社工場住所	平成21年3月1日	103.44t/日
選別設備	廃プラ、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類	本社工場住所	平成24年5月7日	368.16m ³ /日
破砕設備	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	本社工場住所	平成24年5月7日	188.16t/日
破砕設備	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	本社工場住所	平成26年1月6日	238.08t/日
破砕設備	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	本社工場住所	令和4年6月28日	237.60t/日

産業廃棄物処分業の許可範囲(名港)

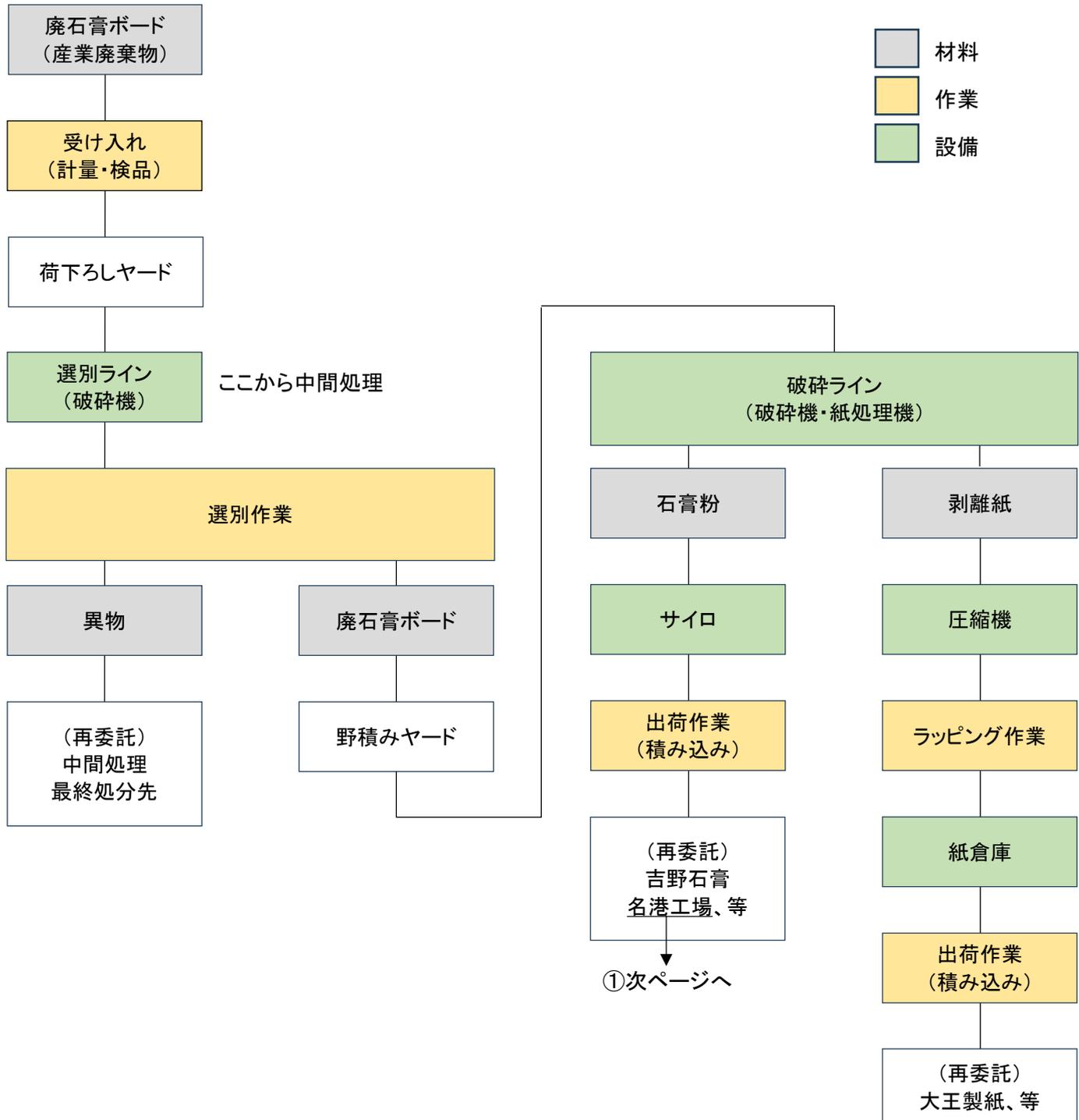
許可年月日:令和2年4月1日 有効年月日:令和9年3月31日	許可番号 06420146810
中間処理(混練)	燃え殻、ガラスくず及び陶磁器くず(石綿含有産業廃棄物を除く)、鉍さい、ばいじん

施設区分	取扱品目	設置場所	設置年月日	処理能力
混練施設	燃え殻、ガラスくず及び陶磁器くず、鉍さい、ばいじん	名港工場住所	平成27年2月13日	540t/日(24h)

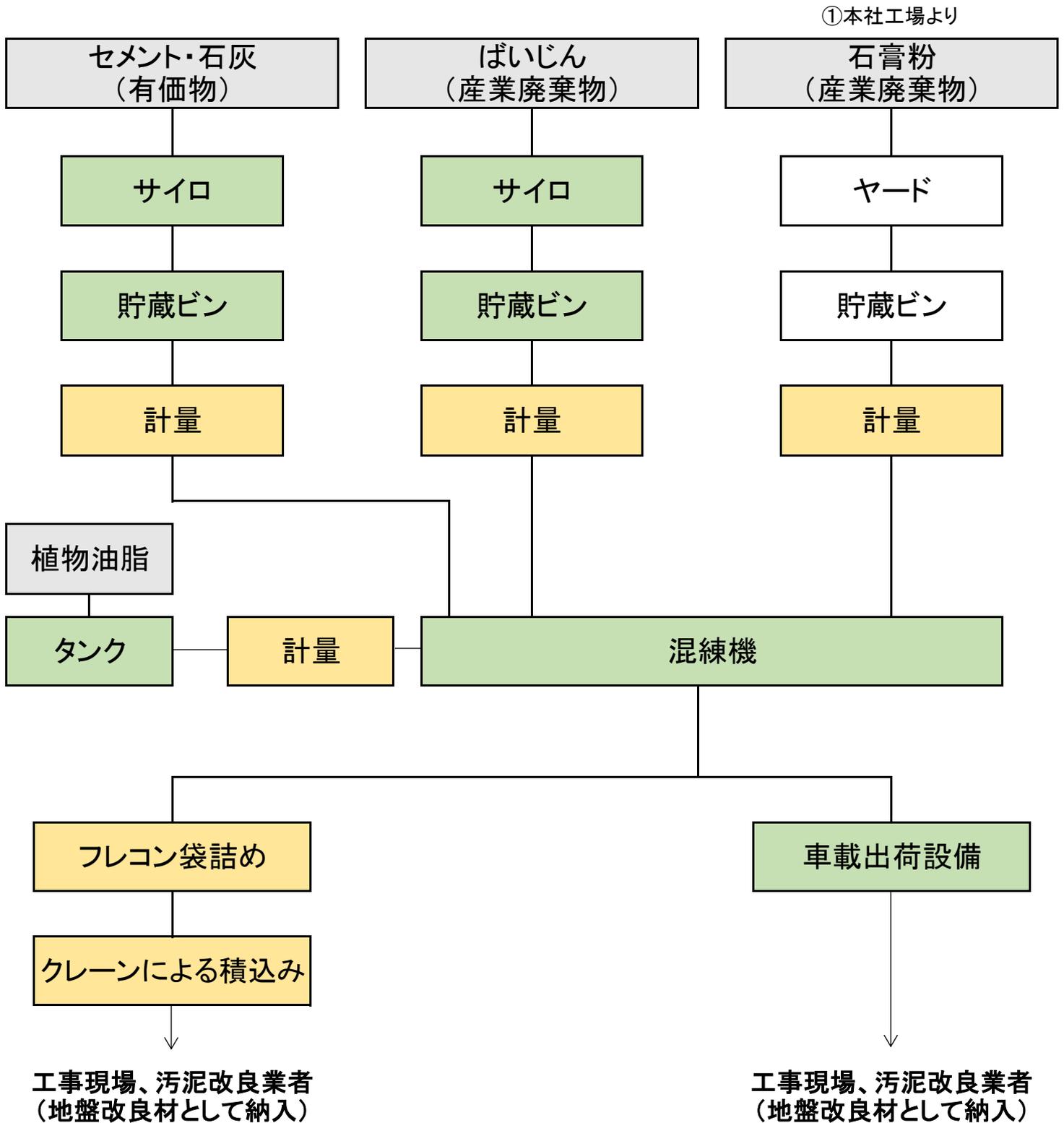
④ 処理工程図



廃石膏ボード処理のワークフロー(本社)



廃石膏ボード処理のワークフロー(名港)



⑤ 所有車両の状況・処理実績



所有車両

種類	仕様	台数(本社工場)	台数(名港工場)
バックホウ	0.45掴み・クレーン	0.45掴み 1台	クレーン 1台
ホイールローダー	2.0m ³ ・1.0m ³	2.0m ³ ・1.0m ³ 各1台	1.0m ³ 1台
フォークリフト	クランプ・フォーク	クランプ・フォーク各1台	フォーク 2台
収集運搬車両	25tトレーラー	1台	無

処理する物品の種類及び施設の種類の種類、処理能力

上記の産業廃棄物処分量の許可範囲に、廃棄物の種類と係る施設、及び処理能力を表しています。

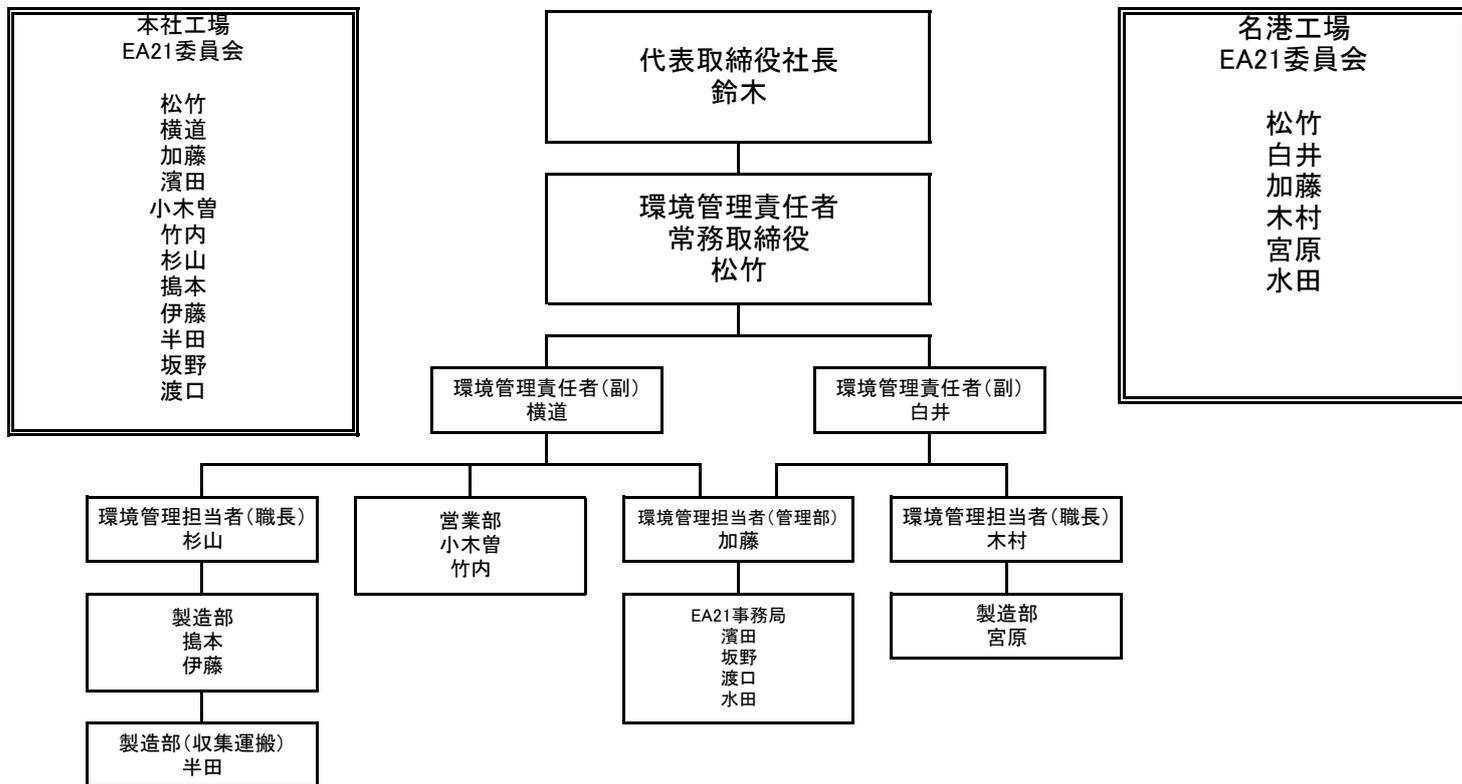
処理実績(2023年度)

- 本社工場における自社車両による産業廃棄物収集運搬量(廃石膏ボード粉): 7,550.11t
- 本社工場における廃石膏ボードの中間処理量: 61,445.63t
- 名港工場における煤塵(PS灰)の中間処理量: 22,321.99t
- 名港工場における廃石膏粉^{※1}の中間処理量: 6,277.23t
- 両工場における再生量^{※2}: 85,094.04t
- 本社工場における最終処分量(他社処分委託): 455.91t

※1 廃石膏粉とは、本社工場で中間処理し、排出された石膏粉のことであり、名港工場に原料として供給している物

※2 本社工場再生量＝廃石膏ボード再生量 名港工場再生量＝地盤改良材原料となる産廃物の使用量

⑥エコアクション21 実施体制



氏名	所属(役職)	役割・責任・権限・使命	氏名	所属(役職)	役割・責任・権限・使命
松竹	環境管理責任者 常務取締役	方針の作成、環境管理責任者の任命、資源(人・物・金)の準備、全体評価と見直し、環境経営レポートの承認	松竹	環境管理責任者 常務取締役	方針の作成、環境管理責任者の任命、資源(人・物・金)の準備、全体評価と見直し、環境経営レポートの承認
横道	環境管理責任者(副) (工場長)	全体の把握、環境経営システムの構築、運用、経営者への報告、環境負荷活動計画、環境上の緊急事態の試行及び訓練に対する取組み推進	白井	環境管理責任者(副) (工場長)	全体の把握、環境経営システムの構築、運用、経営者への報告、環境負荷活動計画、環境上の緊急事態の試行及び訓練に対する取組み推進
加藤	EA21事務局 (管理部)	本社工場、名港工場の電力使用量、水消費量、ガス消費量の管理、営業車ガソリン使用量の統括管理 両工場への目標達成状況報告	加藤	EA21事務局 (管理部)	本社工場、名港工場の電力使用量、水消費量、ガス消費量の管理、営業車ガソリン使用量の統括管理 両工場への目標達成状況報告
杉山	環境管理担当者 (職長)	EA21会議を開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況周知、及び、審議(1回/月)リサイクル率管理、収集運搬管理	木村	環境管理担当者 (職長)	EA21会議を開催し、環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況周知、及び、審議(1回/月)リサイクル率管理、収集運搬管理
搦本	製造部	自社廃棄物の保管量、廃棄量の管理 各重機の使用燃料管理、稼働時間管理	宮原	製造部	自社廃棄物の保管量、廃棄量の管理 各重機の使用燃料管理、稼働時間管理 社用車の使用燃料管理、走行距離管理
伊藤	製造部	自社廃棄物の保管量、廃棄量の管理 各重機の使用燃料管理、稼働時間管理	水田	EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 事業系一般廃棄物排出量管理 水道光熱費削減に向けた取組み推進
小木曾	営業部	社用車の使用燃料管理、走行距離管理	渡口	EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 水道光熱費削減に向けた取組み推進
竹内	営業部	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 社用車の使用燃料管理、走行距離管理			
半田	製造部 (収集運搬)	収集運搬業車両の使用燃料管理、走行距離管理			
濱田	EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 事業系一般廃棄物排出量管理			
坂野	EA21事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 事業系一般廃棄物排出量管理			

⑦環境経営目標

当社は、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し、以下の環境目標を定め、達成に向けた活動に取り組んでいます。

環境経営目標(本社)

環境目標		単位	2020年度 (基準年度 2020.3~ 2021.2)	2022年度目標 目標(基準年度から)	2023年度目標 目標(基準年度から)	2024年度目標 目標(基準年度から)	2025年度目標 目標(基準年度から)	2026年度目標 目標(基準年度から)	
1	二酸化炭素排出 量の削減	kg-CO ₂	530,890	-	-	-	-	-	
		kg-CO ₂ /t	8.97	8.79以下 (2%減)	8.70以下 (3%減)	8.61以下 (4%減)	8.52以下 (5%減)	8.43以下 (6%減)	
	1-1	電力使用量 の削減	kwh/t	25.19	24.69以下 (2%減)	24.43以下 (3%減)	24.18以下 (4%減)	23.93以下 (5%減)	23.68以下 (6%減)
	1-2	燃料使用量 の削減 (軽油、GTL)	ℓ/t	1.67	1.64以下 (2%減)	1.62以下 (3%減)	1.60以下 (4%減)	1.59以下 (5%減)	1.57以下 (6%減)
	1-3	LPG使用量 の削減	kg	56.51	55.38以下 (2%減)	54.81以下 (3%減)	54.25以下 (4%減)	53.68以下 (5%減)	53.12以下 (6%減)
	1-4	ガソリン使用 量の削減	ℓ	4,107	4024.86以下 (2%減)	3983.79以下 (3%減)	3942.72以下 (4%減)	3901.65以下 (5%減)	3860.58以下 (6%減)
2	一般廃棄物排出 量の削減 (可燃ごみ)	kg	234	229.32以下 (2%減)	226.98以下 (3%減)	224.64以下 (4%減)	222.30以下 (5%減)	219.96以下 (6%減)	
3	上下水道使用量 の削減	m ³ /処理量(t)	0.0532	0.05以下 (2%減)	0.05以下 (3%減)	0.05以下 (4%減)	0.05以下 (5%減)	0.05以下 (6%減)	
4	本社業務	処理量	t	46,328	-	-	-	-	-
5									
6	会社周辺の清掃	実施回数	2回 (各拠点ごと)	2回	2回	2回	2回	2回	

※CO₂排出係数は、関西電力:0.360kg-CO₂/kWhを採用

※原単位は処理量(本社業務)当たりの単位である。

※化学物質は使用していない。

※グリーン購入法適合商品は、優先的に購入する。

※それぞれの工場での稼働状況やエネルギー使用状況が異なるため、Co₂排出量以外の環境目標は工場毎に分ける。

※処理設備のリプレース及び処理能力向上を進め、電力使用量の削減に努める。

環境経営目標(名港)

環境目標		単位	2020年度 (基準年度 2020.3~ 2021.2)	2022年度目標 目標(基準年度から)	2023年度目標 目標(基準年度から)	2024年度目標 目標(基準年度から)	2025年度目標 目標(基準年度から)	2026年度目標 目標(基準年度から)	
1	二酸化炭素排出 量の削減	kg-CO2	161,457	-	-	-	-	-	
		kg-CO2/t	8.97	8.79以下 (2%減)	8.70以下 (3%減)	8.61以下 (4%減)	8.52以下 (5%減)	8.43以下 (6%減)	
	1-1	電力使用量 の削減	kwh/t	10.11	9.91以下 (2%減)	9.81以下 (3%減)	9.71以下 (4%減)	9.60以下 (5%減)	9.50以下 (6%減)
	1-2	燃料使用量 の削減 (軽油、GTL)	ℓ/t	0.255	0.25以下 (2%減)	0.25以下 (3%減)	0.24以下 (4%減)	0.24以下 (5%減)	0.24以下 (6%減)
	1-3	LPG使用量 の削減	kg	26.08	25.56以下 (2%減)	25.30以下 (3%減)	25.04以下 (4%減)	24.78以下 (5%減)	24.52以下 (6%減)
2	一般廃棄物排出 量の削減 (可燃ごみ)	kg	55,000	53.90以下 (2%減)	53.35以下 (3%減)	52.80以下 (4%減)	52.25以下 (5%減)	51.70以下 (6%減)	
3	上下水道使用量 の削減	m ³ /生産量(t)	0.00409	0.00以下 (2%減)	0.00以下 (3%減)	0.00以下 (4%減)	0.00以下 (5%減)	0.00以下 (6%減)	
4									
5	名港業務	生産量	t	40,572	-	-	-	-	-
6	会社周辺の清掃	実施回数	2回 (各拠点ごと)	2回	2回	2回	2回	2回	

※CO2排出係数は、関西電力:0.360kg-CO2/kWhを採用

※原単位は処理量(名港業務)当たりの単位である。

※化学物質は使用していない。

※グリーン購入法適合商品は、優先的に購入する。

※名港業務の生産量の中には、資源量を含む。

※それぞれの工場での稼働状況やエネルギー使用状況が異なるため、Co2排出量以外の環境目標は工場毎に分ける。

※処理設備のリプレイス及び能力向上を進め、電力使用量の削減に努める。

⑨ 環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果と評価

2023年度環境経営目標対実績と判定(本社)

環境目標	単位	2020年度 (基準年度 2020.3~2021.2)	2023.3~2024.2			
			目標	実績	判定	
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	530,890	-	774,705	-	
	kg-CO ₂ /t	8.97	8.70以下 (3%減)	12.60 (44.83%増)	×	
	1-1 電力使用量の削減	kwh/t	25.19	24.43以下 (3%減)	27.07 (10.81%増)	×
	1-2 燃料使用量の削減 (軽油、GTL)	ℓ/t	1.67	1.62以下 (3%減)	1.04 (35.80%増)	○
	1-3 LPG使用量の削減	kg	56.51	54.81以下 (3%減)	60.00 (9.47%増)	×
1-4 ガソリン使用量の削減	ℓ	4,107	3983.79以下 (3%減)	4,580 (14.79%増)	×	
2 一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)	kg/t	234	226.98以下 (3%減)	306 (34.81%増)	×	
3 上下水道使用量の削減	m ³ /処理量(t)	0.0532	0.05以下 (3%減)	0.0297 (40.6%減)	○	
4 本社業務 処理量	t	46,328	-	61,446	-	
5 会社周辺の清掃	実施回数	2回	2回	2回	○	

※○: 目標は達成されている ×: 達成されていない -: 判定できない、該当しない
 ※CO₂排出係数は、関西電力: 0.360kg-CO₂/kwh を採用。

2023年度環境経営目標対実績と判定(名港)

環境目標		単位	2020.3~2021.2 (基準年度)	2023.3~2024.2			
				目標	実績	判定	
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	161,457	-	192,407	-	
		kg-CO2/t	8.97	8.70以下 (3%減)	4.25 (51.15%減)	○	
	1-1	電力使用量の削減	kwh/t	10.11	9.81以下 (3%減)	10.33 (5.3%増)	×
	1-2	燃料使用量の削減 (軽油、GTL)	ℓ/t	0.255	0.25以下 (3%減)	0.206 (17.6%減)	○
	1-3	LPG使用量の削減	kg	26.08	25.30以下 (3%減)	27.74 (9.64%増)	×
2	一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)	kg/t	55	53.35以下 (3%減)	63 (18.09%増)	×	
3	上下水道使用量の削減	m ³ /生産量(t)	0.00409	0.00396以下 (3%減)	0.00327 (17.42%減)	○	
4	名港業務	生産量	t	40,572	-	45,203	-
5	会社周辺の清掃	実施回数	2回	2回	2回	○	

※○: 目標は達成されている ×: 達成されていない -: 判定できない、該当しない
 ※CO₂排出係数は、関西電力: 0.360kg-CO₂/kwh を採用。
 ※名港業務の生産量の中には、資源量を含む。

環境経営計画の取組結果及び評価と次年度の取組内容

取組項目		活動項目	実施結果 2023年度	評価と次年度の取組
1 二酸化炭素排出量の削減	1 電力使用量の削減	1 室内空調の管理 	○	左記項目を継続して実施し、電力使用量削減を実現する。
		2 不要時の照明消灯の徹底 	○	
		3 パソコンを長時間使用しない時は電源をOFF・スリープにする 	○	
	2 燃料使用量の削減 (軽油、GTL)	1 エアクリナーをこまめに清掃し燃費向上に努める  	○	運搬車両、重機、リフトの乗車時には、細かなアイドリングストップを義務付け、作業者全体の使用量削減の意識を向上させる。
		2 タイヤの空気圧を定期的に点検し、燃費向上に努める  	○	
		3 アイドリングストップ  	○	
	3 LPG使用量の削減	1 退社時にガスの元栓チェックを行う  	○	上限値が守られてるかを都度チェックする。
		2 夏季の給湯器の使用禁止  	○	
		3 給湯器温度の上限値を設定  	○	
	4 ガソリン使用量の削減	1 社用車でエコドライブの推進  	○	営業向けの安全部会で、低燃費となる運転方法の実施を促す。
		2 タイヤの空気圧を定期的に点検し、燃費向上に努める  	○	
		3 アイドリングストップ  	○	
2 廃棄物排出量の削減	1 ペーパーレスに努める  	○	個人的に使用する印刷物等には、裏紙の使用を徹底する。	
	2 分別の徹底  	○		
3 上下水使用量の削減	1 毎週末に構内水道蛇口のチェック  	○	土間清掃はスqueegeeを使用し、清掃に水道を極力使用しないようにする。また、新規設置予定の集塵機を活用し、出荷作業時の散水時間を削減する。	
	2 出荷車両洗車時の節水への呼びかけ  	○		
	3 ポスターを貼り、意識の徹底をする  	○		
4 安全衛生	1 紙倉庫内の整理整頓 	○	引き続き2回/年の頻度で清掃を実施する。	
	2 会社周辺の清掃 	○		
	3 安全訓練の実施  	○		
5 グリーン購入の推進	1 事務用品、事務用機器の該当商品購入 	○	グリーン購入適合品を積極的に購入する。	
6 処理能力の向上	1 (本社工場) 既存設備の変更計画を継続して推進し、今期中に破砕設備変更に伴う処理能力増強を行う  	○	都度リプレースの必要性を考慮し、品質確保のための保守点検を実施。今後も都度検討を行い実行する。	
	2 (名港工場) 生産能力に直結する老朽設備の交換を実施 協力業者社員の教育を進め、生産効率の向上を図る  	○		

○:計画は実施されている △:一部実施されている ×:実施されていない -:判定できない、該当しない

⑩環境関連法規等の順守状況及び評価結果並びに違反、起訴等の有無

当社に適用される、環境関連法規(廃棄物の処理及び清掃に関する法律、騒音・振動規制法・フロン排出抑制法・労働安全衛生法、下水道法、グリーン購入法、廃棄物処理法(廃掃法、消防法))について、遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

⑪代表者による全体評価と見直し・指示

①評価

本社工場の2022年度は5月に設備のリプレイス(処理能力向上)があり約1ヶ月設備停止があった影響で処理量が少なかった。2023年度は処理量が増加したため二酸化炭素排出量は増加した。本社工場は設備のリプレイス以降電力使用量が増加したため、二酸化炭素排出量は原単位でも増加しているが、名港工場における原単位での目標値は達成となっている。2023年度は通期で新設備の運用を行った初年度となるため、次年度は基準年度を2023年度に変更することを視野に入れたうえ、各項目の削減を継続して実施する。

②見直し・指示

2023年度の目標の達成率については、本社工場で二酸化炭素排出量、電力使用量が未達成となっているが、これは能力向上した設備によるものと考えられる。本社工場のガソリンや可燃ごみは人員増によるものと考えられる。両工場とも処理量が増加すれば自ずと増員となり一般廃棄物排出量も増加することも踏まえ、原単位評価にするなどの見直しを図り対策を実施する。

本社工場においては二酸化炭素排出量、電気使用量、ガソリン使用料、一般廃棄物排出量が目標未達となってしまったが、2022年度の設備のリプレイス工事に伴うキューピクルの増設等、設備全般にかかる電気使用量が増加したためだと考えられる。また、職員の社用車の台数、協力業者の従業員数も増加しているためガソリンや一般廃棄物排出量も増加している。今後も同水準以上の生産を行う場合、目標未達状態が続くと見込まれるため基準年度を2023年度とする見直しが必要と考える。

尚、両工場における一般廃棄物排出量の目標未達の原因は、昨年同様ペーパータオルの使用や、各種熱中症対策によるペットボトルや紙コップ等が大きな要因と考えられるため、今後は、通常のタオルに戻す等の対策も検討する。